

平成 30 年 4 月に出荷制限指示が解除された 3 魚種の安全性について

福島県水産海洋研究センター 放射能研究部

事業名 放射性物質除去・低減技術開発事業

小事業名 放射性物質が海面漁業へ与える影響

研究課題名 海洋生物への移行に関する調査・研究

担当者 鈴木翔太郎・天野洋典・松本陽・森下大悟・渡邊昌人・根本芳春・平田豊彦

I 新技術の解説

1 要旨

2011年3月に発生した東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所(以下第一原発)の事故の影響により、本県沖の魚介類から国の基準値(100 Bq/kg)を超える放射性セシウム($^{134+137}\text{Cs}$, 以下、放射性 Cs)濃度が検出されたことから、本県沿岸漁業は通常操業の自粛を余儀なくされている。県では、本県沖の海産魚介類の緊急時環境放射線モニタリングを行い、本格操業に向けた試験操業拡大の支援を行っている。本調査では、2018年3月末時点で出荷制限が指示されている10魚種のうち、100 Bq/kgを連続して下回っている3魚種(キツネメバルおよびシロメバル、スズキ)について、2011年4月から2018年10月末までの緊急時環境放射線モニタリングのデータから放射性Cs濃度の傾向について整理し、当該魚種の安全性を示す資料とした。

- (1) キツネメバルは2014年12月6日に230 Bq/kgの放射性Csを記録してから2018年3月末まで368検体が連続して100 Bq/kgを下回った。
- (2) シロメバルは2015年1月27日に180 Bq/kgの放射性Csを記録してから2018年3月末まで388検体が連続して100 Bq/kgを下回った。
- (3) スズキは2014年7月23日に120 Bq/kgの放射性Csを記録してから2018年3月末まで474検体が連続して100 Bq/kgを下回った。
- (4) キツネメバルおよびシロメバル、スズキは2018年4月24日に出荷制限指示が解除された(図1)。
- (5) キツネメバルおよびシロメバル、スズキは2018年5月31日に試験操業対象種に追加された。
- (6) 当該3魚種については、出荷制限指示解除後も100 Bq/kgを超えていないことを引き続き確認している(図2、3、4)。

2 期待される効果

- (1) 本県沖の海産魚介類の安全性が示される。
- (2) 出荷制限指示の解除により試験操業による対象魚種の拡大と漁獲量の増大が期待される。

3 活用上の留意点

- (1) 特になし。

II 具体的データ等

海産魚介類に関する国の出荷制限指示 2018年10月31日現在 7種類		
ウミタナゴ	サクラマス	ムラソイ
カサゴ	ヌマガレイ	ヒノスガイ
クロダイ	シロメバル	
キツネメバル	スズキ	
2018年4月24日解除	2018年4月24日解除	

図1 出荷制限が指示されている魚種について

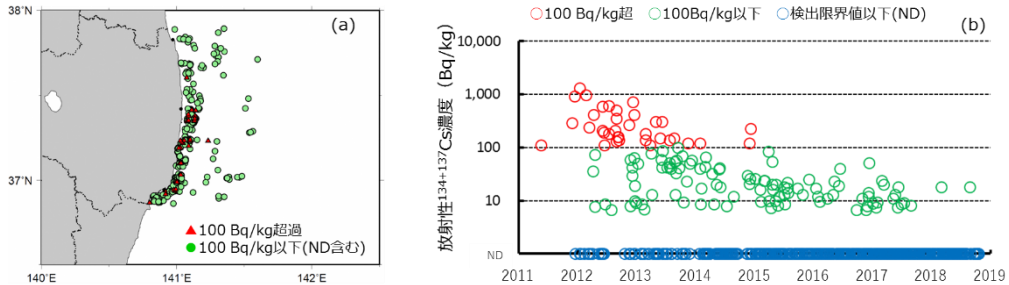


図2 2018年4月に出荷制限指示が解除された(a)キツネメバルの検体採取地点と (b)放射性Cs濃度の推移

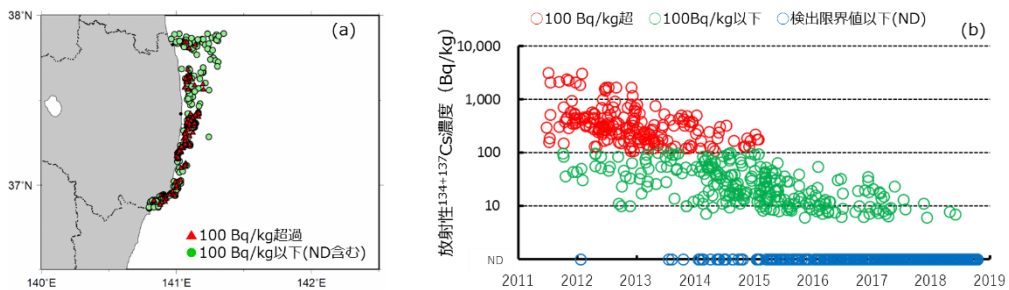


図3 2018年4月に出荷制限指示が解除された(a)シロメバルの検体採取地点と (b)放射性Cs濃度の推移

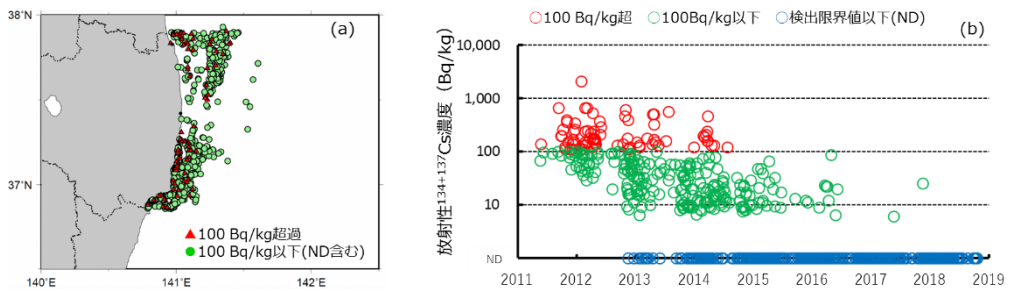


図4 2018年4月に出荷制限指示が解除された(a)スズキの検体採取地点と (b)放射性Cs濃度の推移

III その他

1 執筆者

鈴木翔太郎

2 実施期間

平成23年度～30年度

3 主な参考文献・資料

- (1) 平成23年度～28年度福島県水産試験場事業概要報告書
- (2) 平成29年度放射線関連支援技術情報(モニタリング結果に基づく試験操業の支援)